

構想の柱 4

多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園

施策 16 岡崎地域活性化のための連携

京都市における文化・観光拠点の一つである岡崎公園に立地している地理的環境を活かし、岡崎地域の他施設（京都市京セラ美術館、ロームシアター京都、琵琶湖疏水記念館等）、京都岡崎魅力づくり推進協議会、岡崎連絡会、京都市の関係部署（総合企画局プロジェクト推進室、産業観光局観光MICE推進室、交通局等）と連携し、岡崎地域の活性化を図るとともに、来園者の増加に繋がる取組を進める。



（事例：岡崎の魅力伝える動物園ツアー）

具体的なアクション

- ①「京都岡崎コンシェルジュ」などのポータルサイトや「岡崎手帖」等のガイドブックを活用した情報発信力の強化。
- ②法勝寺の造営跡や琵琶湖疏水の活用についての情報発信。
- ③国の「重要文化的景観」に選定された「京都岡崎の文化的景観」を構成する施設として、東山を借景とした花や緑が美しく映える自然環境を活かした、四季を身近に感じることでできる空間づくりの促進。
- ④夜間開園等、岡崎地域の他施設と連携したイベントの実施。



（事例：夜間開園）

施策 17 外国人観光客の誘致（多言語化等）

国際文化観光都市として、園内の動物説明板等の多言語化を図り、観光客・インバウンドによる海外からの来園者を積極的に誘致する。特に、アジア圏の訪日観光旅行者が多いことから、アジア圏の言語の翻訳に重点を置く。

具体的なアクション

- ①動物説明板やパンフレット等の多言語化の促進。
- ②インバウンド向けの観光雑誌への情報掲載。



（事例：中国語パンフレット）



施策 18 「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致

生物多様性や地球環境の保全等の環境教育に力を入れ、「環境都市・京都」のシンボル施設として定着させ、訪日観光旅行者や教育旅行（修学旅行等）の誘致を図る。

具体的なアクション

- ①「環境都市・京都」の取組を発信できるコンテンツの作成。
- ②全国各地の教育機関への本園の取組の周知。



（事例：研修旅行で訪れた高校生）

施策 19 効果的な広報活動の展開

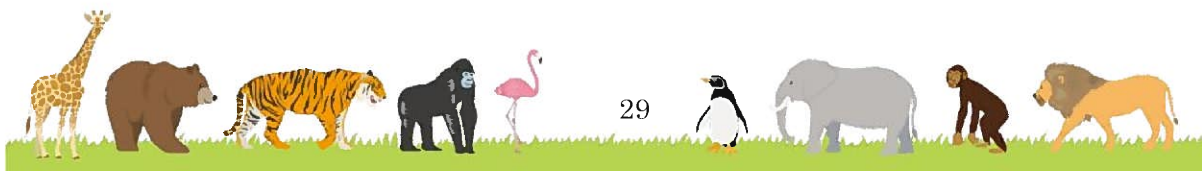
本園に関する様々な情報を、多くの方々に分かりやすく伝えるため、「動物園だより」や「Zoo News」をはじめとする各種刊行物や、テレビ、新聞、SNS、HP等の広報媒体を有効に活用し、効果的な広報活動を展開する。

具体的なアクション

- ①時代に即した広報媒体（刊行物やSNS（Twitter, Instagram, Facebook）等）の積極的な活用。
- ②広報効果の大きい広報媒体（テレビ、新聞）への細やかな情報提供。
- ③PTAフェスティバルや各区ふれあいまつり等、地域のイベントへの出展による積極的な周知活動。



（事例：動物園 twitter ページより）



構想の柱5

「近くて楽しい動物園」の更なる発展

施策 20 展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進

時代に即した展示技術の工夫及び動物の生態や解説の充実によって、魅力ある展示を目指す。また、太陽光発電等自然エネルギーを活用し、環境に配慮した「エコ・Zoo」の取組を更に進める。



(事例：エネルギー管理システム)

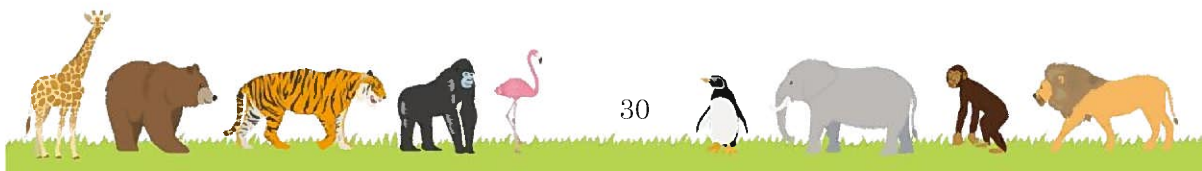
具体的なアクション

- ①時代に即した展示技術の工夫及び動物の生態や解説の充実。
- ②自然エネルギー設備の導入促進。

現在の取組

「エコ・Zoo」の取組

- ・スマートシティ京都プロジェクトの一環として、岡崎地域全体でのエネルギーとエコのショーケース化に取り組んでおり、その1拠点である本園では、「エコ・Zoo」の実現に向けた様々な環境に配慮した取組を行っている。



施策 21 ユニバーサルデザインの推進

障害者，小さな子ども連れの家族，高齢者等の特に配慮が必要な来園者が楽しめるよう，ユニバーサルデザインを推進する。

具体的なアクション

- ①園内の通路・施設・サイン等のユニバーサルデザイン化の促進。
- ②ベンチやパーゴラ（日除け屋根）等休憩施設整備の充実と適正な維持管理の実施。
- ③園内の美化の徹底及びホスピタリティ溢れる空間づくりの実施。



(事例：点字ブロックとスロープ)

施策 22 顧客満足度（CS）の高いサービスの提供

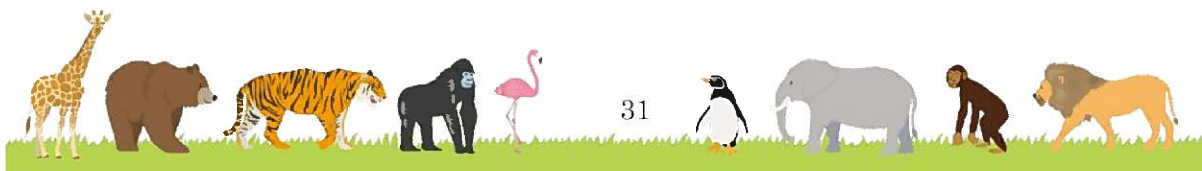
「レストラン」や「ショップ」で，入園者の思い出に残るような「食べる楽しみ」，「買う楽しみ」を大切にしたい，顧客満足度（CS）の高い施設づくりやイベント運営を進める。

具体的なアクション

- ①来園者のニーズを捉えたメニュー，グッズの充実。
- ②本園オリジナルグッズの販売。
- ③大人も楽しめるイベント（プレミアムフライデー in Zoo ナイトツアー with ビア等）の継続。
- ④子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめる体験型イベントの充実。



(事例：本園オリジナルグッズ)



施策 23 市民ボランティアとの協働

京都市動物園ボランティアーズをパートナーとして、おとぎの国運営の充実に努めるとともに、本園のガイドを行う「ガイドボランティア」等，市民ボランティアの活動範囲を拡大する。また，学生のまち京都の特長を活かし，平安女学院大学や京都外国語大学等との連携など，多言語ガイドを担う学生のボランティアと積極的に協働し，市民とともに育む動物園を目指す。



(事例：ボランティアーズの活動)

具体的なアクション

- ①京都市動物園ボランティアーズの更なる育成・登録促進。
- ②ガイドボランティアや多言語ガイドを担う学生ボランティアとの協働。

現在の取組

京都市動物園ボランティアーズ

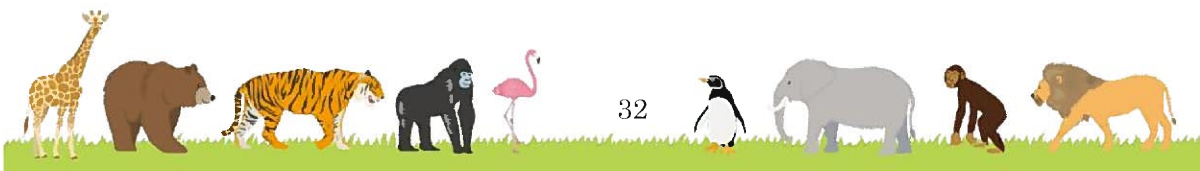
- ・昭和56年（1981）に発足し、「おとぎの国」を中心として現在に至るまで活動を継続している。学生から会社員，主婦と幅広い年代や職業の約50名が，土日を中心に活動している。

○活動目的：

本園の職員と協力して「ふれあい」をサポートすることで，来園者に笑顔で動物と接していただき，感動したり新たな発見をして帰っていただくために活動。

○主な活動内容：

①ふれあいの お手伝い	ウサギ， テンジクネズミ	来園者の方に安全にふれあいをしてもらうために，ウサギやテンジクネズミの安全な触れ方のアドバイスやお手伝い。
	ヤギ，ヒツジ， ミニブタ等	来園者に楽しんでいただけるように，おとぎの国にいる動物の説明。
②その他	動物のお話の紙芝居や，動物の頭骨を使った説明（草食，雑食，肉食の違い等）。	



施策 24 共汗に基づく市民及び企業の参加促進

市民や企業から御支援いただくサポーター制度や市民参加型のイベントの充実等，御支援のニーズを的確に捉え，市民及び企業との協働による運営を目指す。

具体的なアクション

- ①市民のエサ代サポーターへの参加促進。
- ②看板広告サポーターやホームページのバナー広告の普及促進，商品提携や提案型サポーターへの参加促進による，民間企業の資金やノウハウの導入促進。
- ③「ゴリラのお庭に木を植えよう！」等のイベントを通じた本園の運営に対する市民参加の促進。



(サポーター企業向け報告会の様子)

施策 25 ハード整備の推進

動物福祉の観点から課題のある「サルワールド」(サル島及び類人猿舎)をはじめとした園内動物舎について飼育展示の見直しと施設整備の検討を進める。整備に当たっては，周囲の動物舎との調和や，教育・研究機関としての機能拡充を考慮する。

具体的なアクション

- ①動物福祉に配慮した園内動物舎の整備の検討。
- ②教育・研究機関としてハード面からの機能拡充。



(事例：サル島(昭和12年竣工))

施策 26 動物舎の計画的な維持・管理充実

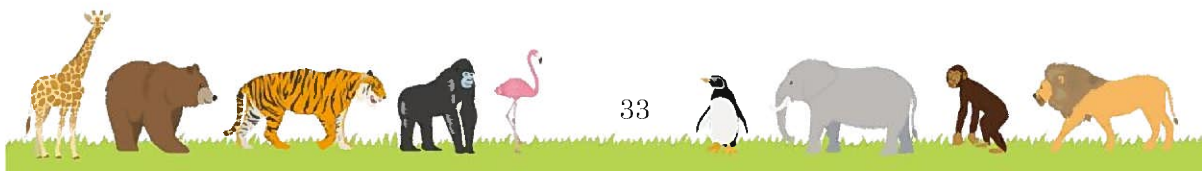
動物舎に対して必要な修繕を計画的に実施し，動物福祉に配慮した改修や施設の長寿命化を図る。また，園内景観の重要な要素である植栽の管理についても，維持・管理充実を図る。

具体的なアクション

- ①動物舎の修繕計画の作成。
- ②園内の草花や樹木の充実整備と育成管理。
- ③毎月1回の定期パトロール等，予防保全型の維持・管理の実施。



(花の植替え作業の様子)



施策 27 運営体制の充実及び更なる安全対策の実施

本構想の各施策を進めるために必要な体制を整備し、効果的で効率的な業務を進められる職場環境づくりに努める。また、各施策を展開するために、集客の取組やイベントの有料化等、増収に努め、必要な財源を確保するとともに、必要な経費についても適宜点検し、経営の視点を取り入れながら、運営体制を充実させる。また、定期的に施設の点検を行い、来園者と職員等の安全確保に努める。

具体的なアクション

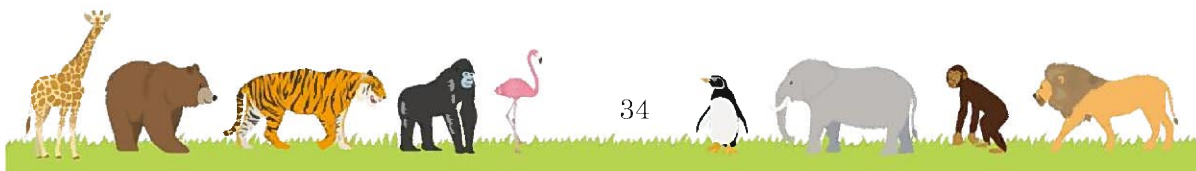
- ①本構想を推進するための本園の運営体制の充実・職場環境づくり。
- ②有料イベントの企画検討，実施。
- ③必要経費の点検と経費削減の推進。
- ④安全対策のための動物舎などの施設の定期点検等の実施。



(動物脱出対応訓練の様子)

現在の取組

- ・平成20年(2008)6月に発生した飼育員死亡事故を教訓に、安全管理担当者を設け、職員の安全対策を進めている。また、毎月、安全衛生委員会を開催し、情報共有を行っている。
- ・大型動物の移動の際、必ず係長級以上の職員が付き添うこととしている(ダブルチェックの徹底)。
- ・年2回、動物舎などの施設の定期点検等を実施している。
- ・年1回、動物脱出対応訓練の実施。危険動物の脱出事故という緊急事態を想定し、被害の拡大を防ぎ、来園者及び地域住民の安全を確保することを目的としている。



本園では様々なイベントを開催しています！

知的好奇心を満たす学びを提供

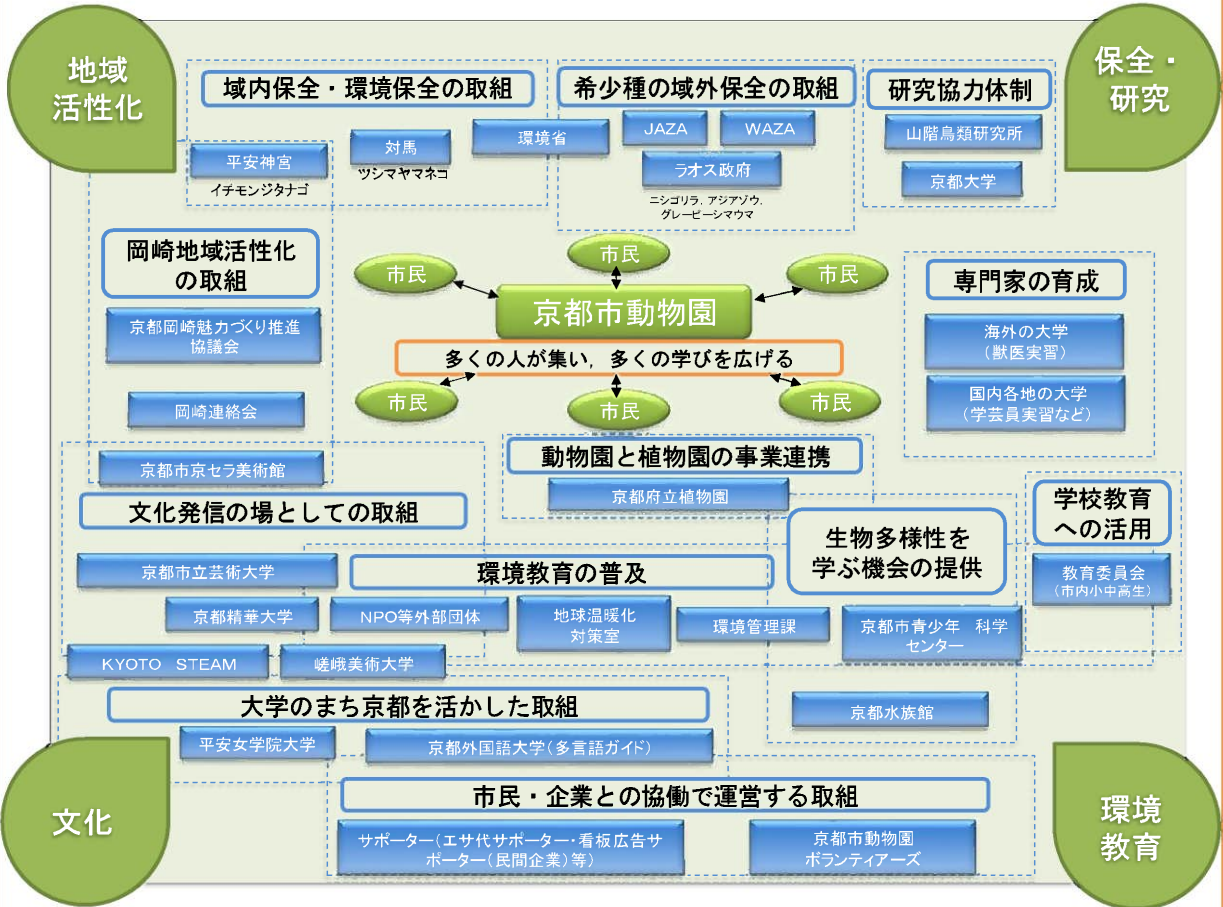
・「学び」の中にある「楽しみ」を皆様に提供するため、様々なイベントを開催しています。

イベント名	内 容	
どうぶつのお宅拝見！ (H19～)	キリン舎やゾウ舎等、普段は入れない動物の寝室をのぞいてみるができる。	
世界〇〇の日 (H19～)	日々飼育作業を行っている飼育員だからこそ知っている動物たちの裏話等が聞ける。	
獣医が行く！ (H19～)	動物たちの治療を行っている獣医から、動物の話や苦労話等、様々な話が聞ける。	
サルのお勉強の話 (H20～)	生き物・学び・研究センター職員から、チンパンジー、シロテテナガザル、マンドリル、ニシゴリラを対象とした、タッチモニターを使った数字の系列を学習する「お勉強の時間」の取組等の話が聞ける。	
ゾウ温泉 (H28～)	「ひかり・みず・みどりの熱帯動物館」のボイラーで沸かしたお湯をゾウのプールに給湯し、ゾウがお湯につかって楽しむ様子を見ることができる。	
園長さんとお散歩 (H29～)	園長が動物や動物園の取組等を解説しながら楽しく案内する、大人が楽しめる動物園ツアー。	
6000万年サルの旅 (H30～)	霊長類の進化や生態、認知能力についての研究成果が聞ける。	
プレミアムフライデー in Zoo ナイトツアー with ビア (H29～)	野生動物や動物園の魅力伝える講演、ガイドツアー、本園職員と交流を図りながら夕食を楽しむことができる。	



持続可能性に向けた京都市動物園運営のネットワーク

多くの市民，様々な施設・機関とネットワークを築いていきます。



※施設名・機関名等については一部省略しています。

※略称について

JAZA (Japanese Association of Zoos and Aquariums) (公社)日本動物園水族館協会

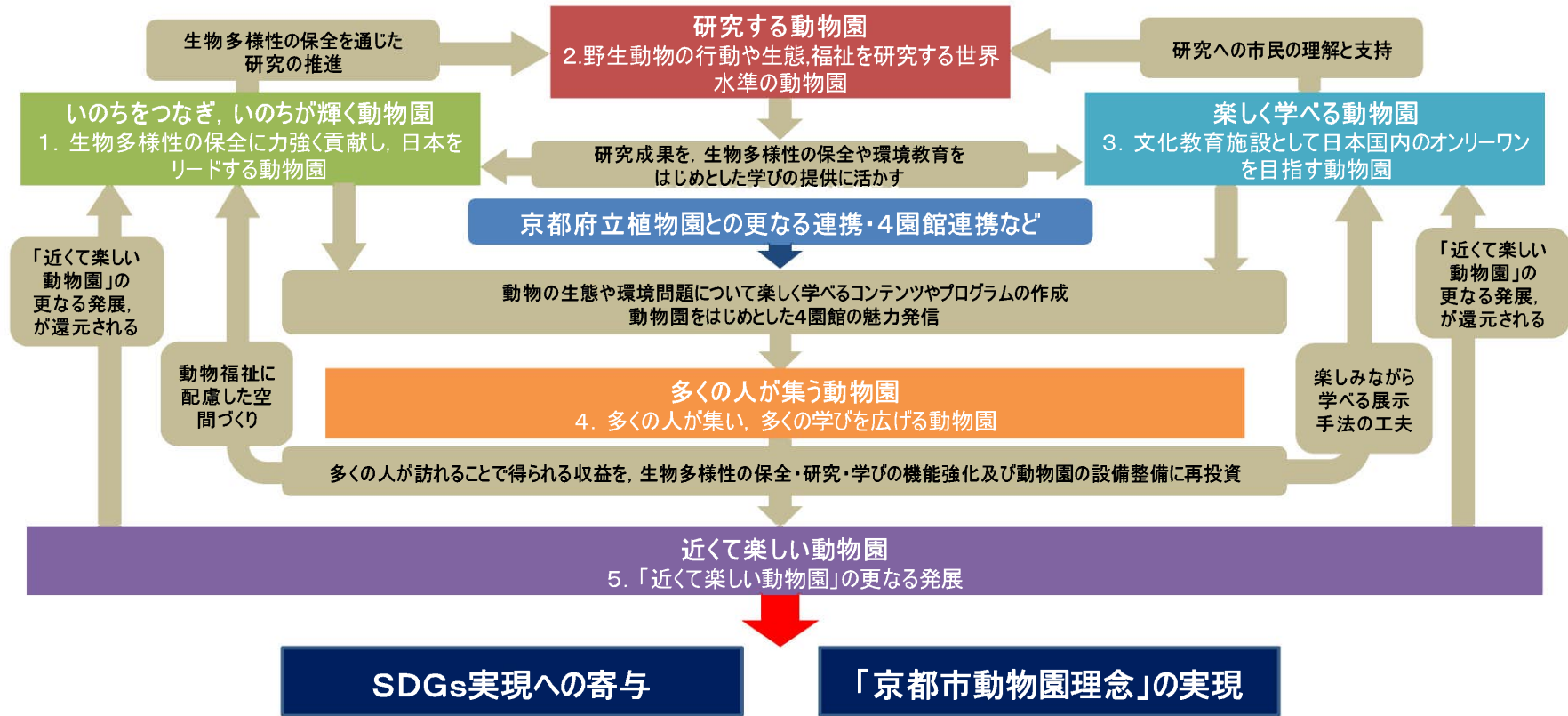
WAZA (World Association of Zoos and Aquariums) 世界動物園水族館協会



(4) 5つの柱と27の施策の戦略的な推進

本園の役割や施策ごとに求められる、「機能」や「事業」が個々に取り組みられるだけでなく、それぞれの関係性を考慮し、相乗効果を生み出せるような取組とすることが重要です。

そのような役割や施策の関係性に基づき、必要な「機能」や取り組むべき「事業」を検討することによって、SDGs実現への寄与を目指すとともに、「京都市動物園理念」の実現に向け、戦略的に施策を展開します。



図：5つの柱と27の施策の戦略的な推進